

令和3年度 第2回全国健康保険協会和歌山支部評議会議事録

令和3年度 第2回全国健康保険協会和歌山支部評議会

開催日時：令和3年9月28日（火）14：00～15：30

開催場所：和歌山ビッグ愛 801 会議室

出席者：金川評議長、足立評議員、岡田評議員、貴冬評議員、小牧評議員、嶋本評議員、中村評議員（評議員五十音順）

令和3年9月28日に令和3年度第2回全国健康保険協会和歌山支部評議会を開催し、評議員9名中7名が出席、その概要は下記のとおりです。

議題

1. 令和4年度支部保険者機能強化予算にかかる事業（案）について
2. 保健事業の現状と課題について

議題 1. 令和4年度支部保険者機能強化予算にかかる事業（案）について

事務局より令和4年度支部保険者機能強化予算にかかる事業（案）について、資料に沿って説明。

主な意見・質問

支部医療費適正化等予算について

【事業主代表】

事業経費については相見積のうえ計上しているか？

（事務局回答）

紙媒体に関する調達の際は見積公告を出して広く業者を募り、価格競争で一番安い業者と契約することになる。今回は予算（案）の段階のため、最低2者から見積りを取って平均額を予算（案）として計上している。

バス広告については、バス会社の広告代理店が1つしかないため、その業者と契約することになる。

【被保険者代表】

ジェネリックの広報（チラシの配布やバス広告）は誰に対して発信し、どのような効果を期待しているのか？

以前医療機関を受診した際に、ジェネリック希望シールを保険証に貼っていたが、本人の意向は反映されず医師は先発品を処方した。一般に向けた広報と医療機関に向けた広報とどちらの効果が高いのか？両者に向けた広報を行うことで相乗的な効果が得られるのではないのか？

（事務局回答）

アプローチの対象としては、加入者・医療機関（医師）・薬局の3者が考えられる。

医療機関については、院内処方と院外処方のケースがあり、院内処方の場合は医師の意向が大きく影響するので、医師に対するジェネリックへの理解が必要。院外処方は、患者が希望すれば比較的ジェネリックに切り替えてもらいやすく、患者にジェネリックを知ってもらうために積極的に広報することが大事。それぞれにアプローチして三位一体で取組まないと使用割合は向上しない。

医療機関や薬局に対しては、ジェネリックカルテを個別に送付してジェネリックの使用状況を把握してもらい、また、使用割合が特に低い医療機関等には個別訪問を実施して具体的に切り替えて欲しい薬を提示しながら協力を得る取組を行っている。加入者に対しては、ジェネリック医薬品軽減額通知を送付することで、和歌山支部で年間2億円程度の切り替え効果が得られた。

【事業主代表】

医療機関事務担当者向け健康保険事務説明会の開催にかかる経費（通信機器レンタル料）5.5万円は、1年間通しての費用なのか？

（事務局回答）

1回の会議にかかる費用。オンライン会議を開催する際の通信機器のレンタル料として相見積もりを取ったうえで予算計上している。実際に調達を行うと複数の業者の参入が見込まれるので価格は下がると想定される。

【事業主代表】

和歌山県の広報誌「県民の友」の記事掲載費用は他の広報誌に比べ高いと感じた。

（事務局回答）

県民の友は和歌山県が入札により委託業者を決めているので毎年価格は変動しているが、広報誌の経費の中では単価が最も高くなっている。しかしながら、県内全体に配布される唯一の広報誌のため有用な広報媒体であり、今年度も予算計上している。

【学識経験者代表】

最近では新聞を取らない家庭も増えており、県内で唯一全戸配布される県民の友は影響力があるので、非常に効果の高い広報媒体と考える。

【事業主代表】

バス車内放送広告が「新内停留所」で放送となっているが、「市役所前」「県庁前」「和歌山城前」での実施はどうか？

（事務局回答）

「新内」は乗降者数が最も多いJR和歌山駅の一つ手前の停留所であり、JR和歌山駅を利用する人が必ず通るルートであることから一番耳に入れてもらえる機会が多いという理由で選んだ。「いっぺんつこうてみよら」と耳に残る和歌山弁を使用して流している。

【被保険者代表】

紙媒体の広報が多いと感じたが、目にする機会が少ない。IT・デジタル等を用いた広報は検討しているか？

（事務局回答）

加入者に広く発信したい場合には、基本的に紙媒体の広報手段を考えている。SNS は個人情報のセキュリティ面の課題があり導入は難しいが、デジタル広報は効果的なものがあれば積極的に取り入れたいと考えている。

【学識経験者代表】

ある自治体では子育て悩み相談を LINE で行うことを検討しており、専用フォームに相談内容を入力すると産婦人科や助産師などの関係者が 24 時間以内に返信するシステムを導入している。医療機関に直接行かなくても相談できることから、協会けんぽの相談業務にも応用できるのではないかと思う。

支部保健事業強化予算について

【事業主代表】

集団健診の経費について、「わかやま商工まつり」が今年度開催できなかった。不要ではないか。

（事務局回答）

商工まつり等の中止により会場が利用できなくなった場合は、代替日や代替会場を設けて実施回数を減らさないよう努めている。来年度もそのように対応したい。

【事業主代表】

出張健診の実施について、働く人たちのために、土日祝・17時以降受診できるように工夫してほしい。

（事務局回答）

土日開催も含めて日程調整を行っている。17時以降については絶食が必要な胃の検診もあることから夕方の開催は適さない。

【事業主代表】

健康経営促進セミナーの実施について
新しく竣工される和歌山城ホールで開催すれば集客が増えるのではないか？

（事務局回答）

和歌山城ホールは 1 年先まで予約が埋まっており当面の利用は無理であったが、機会があれば活用したい。

議題2. 保健事業の現状と課題について

【学識経験者代表】

保健指導の土日開催は新規受診者が多かったのか？

（事務局回答）

今までに受診したことのない人ばかりであった。

アンケートを取ったところ、土日なので利用しやすかったという声や、事業所への案内では本人の元に届かず、今回初めて案内を知ったという人もいた。

【被保険者代表】

マイナンバーカードの保険証利用・オンライン資格確認の普及が進むと限度額適用認定証の手続きが不要になるのか。

（事務局回答）

県内の医療機関ではまだ普及が進んでいないが、将来的には不要になる。

【被保険者代表】

定期健康診断と特定健康診査の血糖検査に関するミスマッチの取扱い変更については、厚労省の指導により進められているのか？

（事務局回答）

労働局も国からの通知により関連健診機関や事業所、団体に広報していると聞いている。協会でも事業者健診データの取得勧奨において、労働局と連名でリーフレットを作り周知に努めている。

事務局より、次回評議会は10月19日午後開催予定である旨、連絡を行う。